

## 生徒会機関誌『済美の友』について

今回『済美の友』第296号が発刊されたが、この「296」という数字に疑問を感じないだろうか？何故なら、年1回年度末に発行してきたのであれば、創立119年目を迎えた今年度は「296号」ではなく、「119号」にならねば辻褄が合わない。こうした素朴な疑問への回答として『済美の友』の沿革について記したい。

『済美の友』は、本校創立の明治36（1903）年5月1日からおよそ1年5カ月経った明治37（1904）年10月3日に産声をあげた。当初は『長岡高等女学校彙報』と称し、冊子ではなく四六倍判（B5版よりやや大きい）両面印刷6ページで、表紙もなかった。その後、大正8（1919）年3月10日に発行された第176号までは毎月発行されたが、大正8（1919）年度から、月刊を学期刊に変更し、昭和10年代中頃まで、年間2、3回発行されたのである。

また、『長岡高等女学校彙報』という名称も、明治41（1908）年1月1日に発行された第42号から『良妻賢母之友』に変更され、さらに、今から百年以上前の大正7（1918）年1月10日に発行された第162号から、現在の『済美の友』となったのである。昭和16（1941）年12月の太平洋戦争開始に伴い、生活物資の欠乏が急速に進む中、『済美の友』は、同年12月23日発行の第236号を以て、およそ7年間の休刊となった。昭和20（1945）年8月の太平洋戦争終結後、昭和23年から26年の間に、237号、238号、239号が発行されたが、その後再度の休刊となる。

昭和40（1965）年2月27日、15年ぶりに『済美の友』（239号だが、240号の誤りか？）が復刊され、以降現在まで、年1回年度末に発行され続けている。故に、『済美の友』は単なる機関誌などではなく、正に本校の歴史そのものなのである。